

## 平成28年度第6回最終処分場基本問題検討会 議事メモ（案）

日時：平成29年4月24日 14：00—16：00

資料：

- 1) 6-0 最終処分場基本問題検討会 第6回検討会 次第
- 2) 6-1 委員リスト
- 3) 6-2 平成28年度第5回最終処分場基本問題検討会 議事メモ
- 4) 6-3 最終処分場に関する学術会議回答書の検討
- 5) 6-4 基本項目による原子力プラントと地層処分の整理
- 6) 6-5 地層処分事業のための安全評価技術の開発（I）

議事内容は以下のとおり

（1） 第5回議事メモの確認

以下3点の修正のうえ、議事メモが承認された。

- 1) 「NUMOが500億円持っている」→の文章を削除
- 2) 4ページ上の書き方 → 「1mSvになるには1億年かかるという」書き方に
- 3) 「坪谷氏くらいである」 → 「坪谷氏が指摘している」

（2） 資料6-3についての議論

最初に報告書作成の趣旨について説明があった。学術会議の回答書からの指摘とそれに対するコメントの2部構成になっている。学術会議の回答書に対して検討を行い、原子力国民会議としての見解（コメント）を示したものである。報告書の著者から電事連とゼネコン関係者を抜いてあるのは現役で活動しておられることを配慮してのことである。この点について了承を得た。

次に、要旨の説明が行われ、以下の議論が行われた。

（国民の受け入れについて）

- ・国民に事実を話していくのがファクトでそういう場を作るのが必要である。首長が積極的に、事実を勉強する場を作ってほしい。現場では、事実を知ればそんなものであるとする状況である。
- ・しかし、首長はそういう態度をとるインセンティブはないのではないか。
- ・エネ庁の勉強会について首長は2つの誤解をしている。①規制の反対する場である。②票にならない。
- ・首長に勉強会を開いてもらうように手紙を書く運動をするのはどうか。

（5ページ（ホ）について）

- ・行政の姿勢としてトップダウン型であることを薦めているが、欧米ではこのやり方はだめだということになっている。大臣が訪ねると不信感を持つということがある。これはDADである。

（5ページ（へ）について） 逆転の個所

- ・外国では、原子力推進と地層処분을切り離している。処分の必要性については昔から主張している。法律をほっておいたのは良くない。2000年に地層処分の技術が確立し、処分法を成立させた。

（5ページ（ト）について）

- ・逆転ではなく、そもそも最終処分場が認知されていないということではないか。ドイツでは倫理的なものも支配している。民主、自主、公開について触れてもよいのではないか。また、ドイツでは社会科学倫理委員会を開催して、政府に答申し脱原発政策をとっている。しかし、原子力の専門家でない人たちの声で一般論になっている。日本では、今批判できない風潮がある。今回の検討を機に、議論が高まってほしい。このような目標を小さくても達成できればよい。国民的意見交換を始めるようになるのではないか。これからこの検討の使い道が出てくるのではないか。時宜にかなっている。

- ・北海道では、地層処分場の説明は大変である。受け取ってもらうために大局的な書き方も必要では

ないか。首長の独断専行が批判されてきた。多くの国民は事実を知っていない。認知した人でも安心にまでは至っていないのが現状である。

・小泉氏は再エネ推進団体を作った。小泉氏に反対であるとどんどん言っていく必要があるのではないか。

・こちらの主張を入れたほうが良いのではないか。おかしいところを大局的に論理的に言うのが良い。

・逆転のプロセスは、家電製品、自動車にも言えることであろう。それに対し、原子力は使い始めるところから後始末をやろうということやってきた。

(6 ページ (又) について)

・1994年にナードコーエン氏が、「地層処分に一般の人が反対するのはまだどこにも地層処分場がないためである。世界のどこかに1個作れば、ああこんなものかと、解決するのではないか」と語っている。キーパーソンのいうことを書き入れてはどうか。

・学会会議の回答書は、学会会議の権威を悪用しているともいえる。

(今後)

・今後もこの検討会で議論を深めていく。

(100 万年代の水と地層処分の関係について)

・地下水の流動があっても問題はない。地下水は一時的にしか上昇しない。処分場の場所の選定において、人工バリアが万一壊れてもシナリオ1とシナリオ2で安全解析を実施した結果、大丈夫である。

(3) 資料6-4について

原子力プラントと地層処分について、安全目標、技術基準、等級別扱い、深層防御、心構え(安全文化)などの基本的項目で整理すると地層処分で必要なことが見えてくるのではないかという考えで整理を試みた表が説明された。

(4 次回の予定

次回は、調整して連絡する。

以上